

● どんな実験・工作なの？

今年の特設テーマは「災害と災害への備え」です。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から6年8か月近くが過ぎましたが、福島県では今も多くの人々が避難を余儀なくされていることを忘れないようにしましょう。

地震・津波による原子力複合災害への備えは、自然災害への備えだけでなく、見えない放射線に対しても自分の身を守る備えをしなくてはなりません。

ブースでは、自分の身を守るための最低限必要な放射線防護対策をご紹介します。

● 実験の仕方とコツ

① 余震に対する放射線防護対策について

熊本地震では「最大震度7が続けて発生しました。

自宅や避難所が被災し屋内待避ができない事態の対処方法をご紹介します。

② 東海第二発電所を想定した複合災害時の放射線防護対策について

「半径10km圏内を想定した社会福祉施設に対する原子力災害時の避難・搬送対応マニュアルの見本」を題材にして、地震発生後の初動2時間の災害対応、事故拡大時の災害対応、事故収束後の災害対応の3段階に分けた放射線防護対策をご紹介します。

③ 原発から環境に放出・飛散する放射性物質を視覚で確認する方法について

弊社独自に開発の「見えない放射能を可視化する原子力災害ハザードマップ」を使って、風向に合わせて原発から飛散する放射性物質を視覚で確認する方法をご紹介します。

④ 放射線防護対策で注意すること

原子力災害で注意することは、吸入摂取による内部被ばくをできるだけ減らすことです。自分でできる簡単な放射線防護対策をご紹介します。

● 気をつけよう！

地震・津波による原子力複合災害では、県市町村の役所の建物も被災する可能性があり、

初期の災害対応では、家族や隣近所の地域で助け合う「自助・共助」が大切です。

そのため、日頃から市町村の防災計画を確認し、みんなで情報を共有することが大切です。

● もっと詳しく知るために

内閣府原子力防災のホームページ 「地域防災計画・避難計画策定支援」

http://www8.cao.go.jp/genshiryoku_bousai/index.html

原子力規制庁のホームページ 「原子力災害対策」

<http://www.nsr.go.jp/activity/bousai/measure/index.html>

茨城県庁のホームページ 「防災」

<http://www.pref.ibaraki.jp/kurasu/bosai/index.html>

「放射能を可視化する原子力災害ハザードマップのホームページ」 合同会社原子力災害対策研究所

<http://gensai-taisaku.news.coocan.jp>